

“れんげえんそく”で何を学ぶのか ～生活科教科書・指導書を読む～

「生活科遠足・乗り物遠足」という言葉を聞いたことがおありでしょうか。そして、その多くが切符を買って電車に乗るといった経験をさせることが組み込まれています。これは、生活科教科書 下「そよかせ」にある『れんげえんそく』という題材に描かれていることがもともになっていると思われます。電車の絵、駅の様子の写真、れんげ畑で楽しむ姿…これを見れば、「電車に乗って、目的地に行って楽しんでこよう」という内容を生活科の学習に取り入れようと考えても無理はありません。そして、公共機関にふれ、そこでのマナーや必要な方法を身につけることも大切な学習といえます。乗り物や目的地の魅力で、子どもたちの笑顔がいっぱいの時間になることが期待できる行事になり得ます。

しかし、この『れんげえんそく』では、電車に乗ることや、遠足のような活動することが、本当の目的なのでしょうか。答えは“否”です。『せいかつ教師用指導書④人・ものとかかわる暮らし』の『れんげえんそく』のところ（P50～）を開いてみます。目標には、こう書かれています。（下線；総合生活科委員会）



- ① 自分たちの願いの実現のために学習目的地までの行き方や手段を調べ、駅へ下見に行ったり持ち物を考えたりするなどして、実施することができる。
- ② 公共物の利用マナーや安全を心がけたり、近隣の人々と積極的にかかわったりすることができる。
- ③ 自分たちで家庭にお知らせを出すなどして準備を整え、目的を果たせたことをよろこびあうことができる。

目標の中の②がクローズアップされがちですが、大切なのは、「自分たちの願いの実現のため」に実施し、その「目的を果たせたことをよろこびあう」ことなのです。

この題材に関して、“設定の趣旨”には、「動物園に行きたいな」と願ったクラスの事例をもとにして、次のようなことが書かれています。

子どもたちの原動力は何でしょう。「自分たちの力で計画を立てて、動物園に行くんだ」という学級全体の強い願いです。「これはわたしたち2年1組だけの旅なんだ」という強い自覚や誇りです。時間がかかっても、教師は子どもたちがやろうとしていることを見守り、できるだけ実現させていきましょう。計画から振り返りまでの過程を、子どもたちが主体的に進めてこそ、夢の実現です。この学習を終えた時、子どもたちはよろこび、自信をもち、次の活動をみずから生み出していくことでしょう。

そして、“単元取り扱い上の留意点”には、こう述べられています。

この単元は、子どもたちが自分たちの願いや夢の実現に向け、自分たちの力で学習目的地を決め、計画を立て実施していくものです。それまでの学級の中心的活動からのつながり、必要感に支えられた立ち上がりを大切にしましょう。

ちなみに、『長野県小学校教育課程学習指導手引書生活編』に掲載されている、この題材と関連する事例は、「そば打ち修行の旅へ 出かけよう」です。事例の内容は、次の文章でまとめられています。

